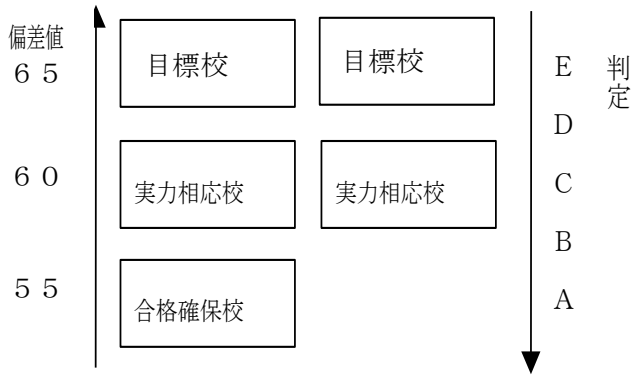
進路だより
２０２５年１０月３０日（木）
Ｖｏｌ．37　第30号（通巻1376号）進路指導部

併願プラニング～第３弾
～今の力が，入試当日の力ではない～

２７号・２９号で併願の考え方について説明しました。加えて、１０月２３日（木）には、文理に分かれて『受験対策説明会』が開かれました。「**現役生は入試当日まで伸び続ける**」ので「弱気にならなず」目標校を厚めに設定しようという話が、２系統（理系・文系）ともありました。そのためには**第一志望校への強い思い・ぶれない高い志が必要**です。ただ一人一人、様々な内的外的な要因・環境がありますから全員が同じような併願校設定の仕方を選ぶわけにはいきません。この点について説明を加えたいと思います。

難易度に幅をもたせる

同難易度の大学ばかりを受けた場合、全滅する可能性があります。したがって、**目標校(チャレンジ校)・実力相応校・合格確保校の３段階に分類して併願校を選定**していくのが望ましいといえます。実力相応校とは，模試判定でＣを中心にＢ～Ｄの出ている大学です。Ｄというと低い気がするかもしれませんが、競争率の高い大学入試では、かなりの受験生がＣやＤ判定で合格しています(Ｅ判定でも合格のケースあり)。合格可能性30%のＤ判定校でも４校受験すれば、



“少なくとも１校に合格する確率”
$=1-(0.7)^4=0.7599$
つまり，約76%もあります。
（**余事象の利用：「共通テスト」数学Ａの頻出問題**）

Ｅ判定中心の大学や，競争率が低いのにＤ判定が出ている大学は目標校となります。合格確保校（「Ａ判定」あるいは「Ａに近いＢ判定」）については、共通テスト利用方式が、①受験料が安い　②受験の負担軽減、などの面で負担も少なくメリットがあります。しかし、共通テスト本番のマークミスの可能性もあるので、**共通テスト利用方式に加えて、一般入試で１校は押さえておいたほうがよい**でしょう。

以上３段階の併願校は難易度でいえば、目標校と実力相応校との間は３以上、実力相応校と合格確保校との間は３～５程度の開きをおくのがよいでしょう。

ただし、成績推移による多少の調整も必要です。**成績推移が「上昇型」の人はチャレンジ校を、「下降型」の人は安全確保校をそれぞれ増加**するとよいでしょう。「不安定型」（アップダウン型）の人は、よく担任と相談してください。浪人覚悟で目標を高く持ちたい人も、一校でも合格した自信は大きいので、安全校も受けることを勧めます（手続きしなければ良い）。私立大では何校でも併願可能ですが、基本的には（共通テスト利用の出願の私大を含め）７～８校程度を目安に、本校の卒業生は受験しています。よく考え、自分の納得できる大学を受験してください。

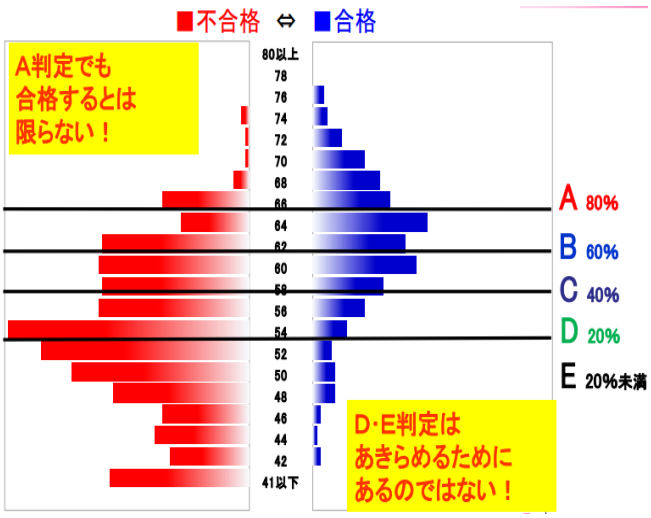
～「受験なくして合格なし」～

最後まで第一志望校をあきらめない ～ 模試の合否判定イメージ

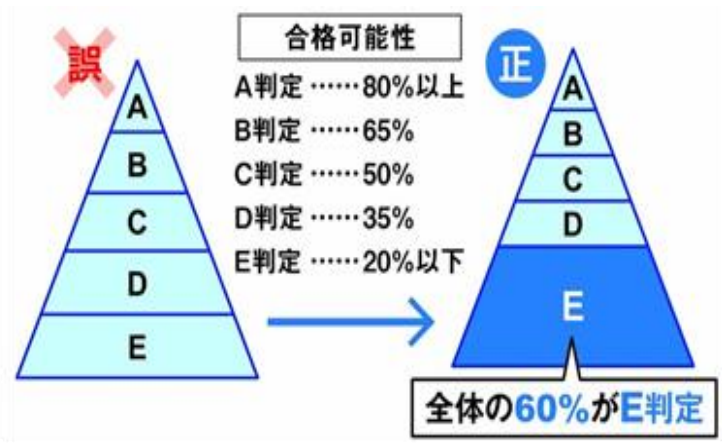
模試判定ランクＡ～Ｅまで均等に２割ずつ分布しているという話はよくある誤解です。各ランクの受験者の分布は均一ではなく、実は、Ｅ判定がつく志願者は全体の６０％に及びます。 つまり、志願者の中で一番多い判定がＥ判定です。Ｄ判定なら「下から２番目の下位グループか…」と受け止めるのではなく「勝負できるところにいる」と考えるようにしましょう。Ｄ判定でも合格の可能性は十分あるということです。「早い段階でＤ、Ｅ判定で志望大学をあきらめるのはもったいない」のです。

模試の結果には、志願者の数や自身の順位も明記されており、仮にＥ判定だったとしても、志願者全体から自身の実力がどの程度なのか、立ち位置を確認することが重要です。 最後の追い込みで大きく実力を伸ばす受験生も少なくないです。あきらめず、志望校を目指して頑張ってください。

＜駿台模試の場合＞



＜河合模試の場合＞



願書（募集要項）の入手方法

共通テストや指定校推薦などでは、学校から願書が配布されますが、**一般選抜では願書は各自取り寄せるのが原則**です。ここで願書の取り寄せ方を確認しておきます。共通テスト後に慌てて取り寄せるのではなく早めに取り寄せましょう。

① **一般選抜の場合は，各自で取り寄せてください。**
② 進路閲覧室のキャビネットにも大学によっては送付された願書が入っていますが、閲覧用です。**持ち出し禁止です。**
③ 進路室前の廊下の棚に置いてある願書は、自由に持って行ってください。
④ 自分で取り寄せる入手方法はいくつかあります。２つあげておきます。
ア． テレメール（赤い冊子、まもなく配布予定）で取り寄せる。
掲載の「取り寄せ方」に沿ってパソコンか携帯電話または、自動音声応答電話から申し込みます。
イ． 大学に直接請求する（大学のホームページを参照）
⑤ **WEB 出願の大学が主流となっています。**出願方法にも注意が必要です。
ＷＥＢ出願でも**大学によって仕組みが違います**ので、十分注意してください。

裏面：2026 年度国公立大学 「学科改組」、「入学定員の増減」などの情報掲載